

Sport
Godzilla®

スポーツ ゴジラ®

第 59 号

特集

スポーツはもっと
面白く味わい深い

Netflixの相撲映画「サンクチュアリ」が、ものすごく面白い。何があんなに面白かったのか考えてみたんだけど、結局出てくるお相撲さん役が、全員、本物のお相撲さんに見えたっていうことだった。チョンマゲもカラダも本物。子供の頃から相撲好きで、ずっと見てきたけど、本物のお相撲さんのチョンマゲやカラダが面白いなんて考えたこと一度も無かった。

無料



スポーツくじ
WINNER
LOTO
BIG

スポーツ振興くじ助成事業

「ゴジラ」は東宝株式会社の登録商標です。
『スポーツゴジラ』は、日本スポーツ学会が
商標使用の許諾を受け、スポーツネット
ワークジャパンが発行しています。

2 | 第59号を発刊するにあたり

長田 渚左

■特集■

「スポーツはもっと面白く、味わい深い」

シンポジウム

4 | スポーツはもっと面白く、味わい深い

ゲスト・やくみつる／杉山茂／佐藤修

司会進行・構成
長田 渚左

27 | スポーツのアナログな世界観

菊 幸一

29 | プール後の眼洗い ― 石岡みさき

取材・構成
波多野 圭吾

36 | 大谷翔平への愉快的アナウンス

構成
鈴木 希人

38 | 『走』第6回

「皇居ラン」は東京五輪と「銀座ホステスマラソン」で始まった!?

玉木 正之

39 | 夢劇場『馬』No.31「千辛万苦」

長田 渚左

40 | バックナンバーのご案内

スポーツネットワークジャパンHP <http://sportsnetworkjapan.com/>
バックナンバー第43号～57号はホームページからもお読みいただけます。

『スポーツゴジラ』は、種目を問わずスポーツそのものの魅力や
価値を語るスポーツ総合誌（フリーペーパー）です。

第59号を発刊するにあたり

編集長 長田 渚左



コロナ禍での東京オリンピック開催からもうすぐ2年。世間はようやく日常を取り戻しつつあります。が、東京オリンピックをめぐる「ニュース」はいまだ終息していません。利権、汚職、談合……スポーツを愛する者にとって何とも心が痛む文字がメディアに並ぶ。オリンピック、そしてスポーツそのものが汚されたような暗たんたる気持ちになってしまいます。

そんな気分を変えたいと思い、59号の特集はスポーツが醸し出すユーモア、ジョーク、エスプリ、ウィット、コミックに焦点を当てました。勝敗や感動ドラマばかりが注目されますが、スポーツの魅力、楽しみ方はもつと奥深く、味わい深いものです。

特集はコロナ禍の落ち着いた4月22日、東京・新

宿区の早稲田大学で3年ぶりに開催した日本スポーツ学会のシンポジウムを再録・加筆したものです。

中でも漫画家のやくみつるさんをはじめ、登壇者の方々が語った長嶋茂雄さんの数々のエピソードは、まさに今回のテーマの象徴で、超満員の会場が和やかな笑いに包まれました。彼の存在の大きさを、あらためて実感させられました。

また、スポーツ界の長い歴史の中で、何の疑いもなく信じ込んでいたことが、実は科学的根拠のない「迷信」に過ぎなかったことは少なくありません。23号の特集「スポーツの迷信」から、今も反響が大きい「プールの眼洗い」について再録します。今もあなたはプールで泳いだ後やシャワーを浴びる時に、せっせと眼を洗っていませんか？

なお、電気代、紙代、印刷代の高騰で、やむを得ずページ数を減らしましたが、何とかスポーツゴジラは生き延びます。引き続き応援して下さい。

ご協賛およびご協力企業・団体



WOWOW



株式会社 御福 餅本家

人と社会を支える力



国土舘大学

文藝春秋

上月財団



MS&AD



三井住友海上



三井不動産
MITSUI FUDOSAN

JAPAN SPORT
COUNCIL



笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

JWOPE 日本女子体育大学



FORUM8
エン지니어リング・ソフトウェアカンパニー

株式会社東美物流



東江テクニカ

公益財団法人
住友生命健康財団

株式
会社 産経映画社

SPN
Security Protection Network

(順不同)

スポーツは もっと面白く、味わい深い

スポーツの最大の関心事は勝利の行方だ。その行方の織りなすドラマに人は酔い、いつも心を揺さぶられてきた。しかし目を転じると、勝負のかたわらには道路の脇に懸命に咲くタンポポのようなユーモア、ジョーク、エスプリ、ウィット、コミック……が。忘れ難いスポーツの味わいに乾杯!!

司会進行・構成 長田渚左



佐藤 修(さとう・おさむ) 1961 (昭和36)年、東京生まれ。スポーツディレクター。スポーツ取材歴35年。卓球の福原愛選手ら多くの才能を発掘してテレビで紹介。2019年にディレクターとして上海国際テレビ祭ドキュメンタリー部門優秀賞を受賞。現在は産経映画社で埋もれたスポーツフィルムをデジタル化して次世代に伝える『プレミア・ムービー・ラボ』を主導。



杉山 茂(すぎやま・しげる) 1936 (昭和11)年、東京生まれ。スポーツプロデューサー。59年にNHKにディレクターとして入局。オリンピックをはじめスポーツ番組の制作と放送権交渉を手掛けた。88〜92年スポーツ報道センター長。98年退局後は02年FIFAワールドカップ組織委員会放送業務局長、19年ラグビーワールドカップ国際映像制作コンサルタントなどのかたわら、スポーツ評論の著述を行う。



やくみつる 1959 (昭和34)年、東京生まれ。本名・畠山秀樹。漫画家。スポーツ、芸能、政治、社会等森羅万象をネタにヒトコマ、四コマ時事漫画を執筆。主な連載に朝日新聞、日刊スポーツ、週刊ベースボール、月刊相撲等。日本昆虫協会副会長。新語・流行語大賞選考委員を務める。早稲田大学漫画研究会同人。



長田 渚左



西本 祥子



玉木 正之



山内 亮治



師岡 文男



スポーツはもっと面白く、味わい深い

表紙が心をキャッチ

——今回はスポーツの中のユーモア、ジョーク、エスプリ、ウイット、コミック等に焦点を当てます。4つのエピソードをご紹介しますが、まず1つ目、杉山さん、いかがですか？

杉山 『Damn Yankees』という映画があります。ブロードウェイミュージカルをもとに制作された作品で、邦題は『くたばれ！ヤンキース』とされました。ワシントン・セネタースという成績の芳しくないチームのファンが毎日「ヤンキース負けろ、ヤンキース負けろ」と呪っていて、その思いが悪魔に伝わってゆく……と、まあそんな話ですが、米国人の生活にプロ野球がしつかりと浸透していて、映画の題材になったというところに注目。さらにヤンキースが憎まれるほどに強いというのが国民的関心事で、くたばれ！ あるいは地獄に墜ちろ！ となるテーマにも別の意味で注目しました。

日本は強さをすぐに神聖化する方向に走るから、スポーツを見る目が「まじめ」一方になる。いさゝか古すぎるヒーローですが、いくら横綱の双葉山が強くても『くたばれ！双葉山』という映画にはならない。今僕は太谷翔平が5打席5三振の日を思い描いています。その日、日本のテレビニュースはおそらく1打席しか見せず、「今日は元氣なく、他の打席も三振でした」とコメントするだけでしょう。何かヒーローやヒロインを神格化して飾り立てるのが日本のスポーツですね。一方、大リーグではこれまでに以上に大谷に親近感を抱いて人気が上がる。三振を奪った投手との対決が新しい物語として期待されるでしょう。

——日本は神聖化して思考を止め、大リーグは次の未来を楽しむということですね。

さて、杉山さんご推薦の雑誌「ナンバー97号」の表紙です。創刊4周年記念号で、『阪神は大阪の恥や』と言われていいのか！タイガース」です。この

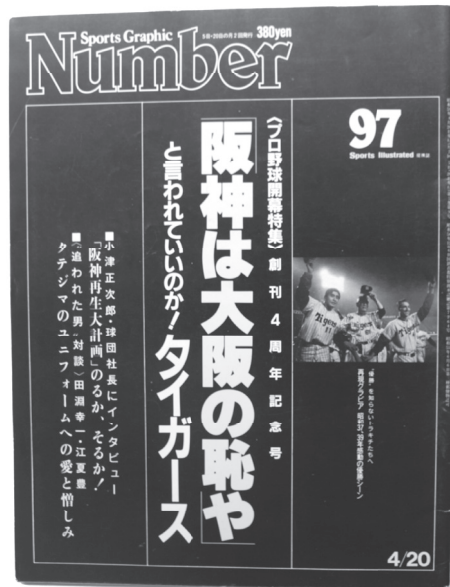
スポーツはもっと面白く、味わい深い



1981年(昭和56)5月20日号／文藝春秋

雑誌刊行の翌年の1985年(昭和60)に阪神タイガースは優勝しています。

杉山 この号より前に編集部が一度味を占めています。1981年(昭和56)5月に同じタッチで阪神を特集していました。表紙のキャッチフレーズの一つに「虎よ、ホルモン焼になるなれ!」とあります。大阪人はどうして東京を抜けないのか? その最大原因はタイガースが優勝できないからだとい



1984年(昭和59)4月20日号／文藝春秋

う声を集めた。

ナンバーの編集部はこんなのつくつたら関西じゃ一部も売れないんじゃないか!? と思つたようですが、関西でも東京でも大当たりしたと言われています。阪神ファンはタイガースを楽しみつくしているんですね。『阪神は大阪の恥や』は『くたばれ! ヤンキース』と同列の裏返しで、この2回の特集、今でも大好きなんです。

特集 最強の障がい者スポーツ



——はい。余談ですがこちらのスポーツゴジラ29号の特集「最強の障がい者スポーツ」で、南伸坊さんが描いた表紙も人目を引き、手にした人から「すごく強烈だった」という声が多かったです。

イエローカード事件

さて、2つ目のエピソードです。サッカーのJリーグ誕生が1993年（平成5）。それから4年後の1997年。日本スポーツ学会会員の山内亮治さん、

紹介してください。

山内 Jリーグは創設から今年30周年となりますが、草創期には珍事件が目立ちました。サンフレッチェ広島がユニホームを忘れて試合に出かけたり、浦和レッズがゴールを決めて大喜びしていたら、試合が再開されていたことに気づかず、ゴールを決められてしまった……という珍事もありました。

その中でも名古屋グランパスに所属していたユーゴスラビア代表MFドラガン・ストイコビッチの「イエローカード事件」が忘れ難いです。

1997年7月9日、瑞穂陸上競技場で行われた横浜マリノス戦で、名古屋の中心選手だったストイコビッチは相手から徹底的にマークされ、何度も倒されたりして自由にプレーすることができませんでした。そのうちストイコビッチも立ちを募らせました。まず前半16分、相手に足をかけて最初のイエローカードをもらってしまいます。その2分後、相手ペナルティーエリア内でボールを奪われた後、遅

れてシオルダーチャージしてしまい、2枚目のイエローカードが出されました。その時、ストイコビッチはそのカードを主審から奪い「いや、お前にイエローだ」と言わんばかりに主審に突きつけ、投げつけます。もう彼は怒り心頭で、ピッツと踵を返してピッツを去りました。それを見た時、まず「エッそれをやっちゃうのか？」とあっけに取られたのを覚えています。次に場面として重なったのは、学校生活で不良少年が先生に勇猛果敢に食ってかかってゆく……ような感じ。「いいぞ、もつとやれ!」みたいなブラックな刺激もありました。特筆すべき部分としては、それが大衆に見られていることを意識しての行為であることに彼の余裕を感じました。「お前にこそイエローカードだ!」と周りにも見せつけた。

この試合に限っては、相手の執拗なマークには警告が出ないのに、自分にはすぐにカードが出てしまう。なぜ自分を守ってくれないのだという不公平感

もあつたと思います。加えて彼はヨーロッパと日本の審判の違いに苦しんできたということもあつた。それまでヨーロッパはコンタクトプレーには比較的寛容で、何か判定に異議があつたときには主審とコミュニケーションを取りながら、上手く試合を進めてきたように思います。Jリーグ草創期はまだ審判のレベルも世界に追いついていなくて、何か異議を唱えようものなら、すぐに抗議と取られて、イエローカードが出された。

「何で分かってくれないの!」という積もり積もつた不満の上に、さらにしつかりマネジメントできない審判では、日本のサッカーは世界に追いつけないよという抗議もあつての「イエローカード事件」だったと思います。

杉山 うーん。なるほどという山内さんの話ですが異論があります。僕の大好きなサッカーのジャッジを巡る言葉があります。「プレーヤーのミスに比べれば、はるかにレフェリーのミスは少ない」です。

プレーヤーはしょっちゅうミスをして、サポーターから怒鳴られ、相手チームのサポーターからは喜ばれる。でも審判の人たちはプレーヤーのミスには何も思わないし、言わない。プレーヤーはジャッジに関して、あーでもない、こーでもないと不満を表す。その中で山内さんのおっしゃったこともあるだろうが、ミスの数ではプレーヤーに比べると審判の方がはるかに少ない。

つまりミスジャッジもサッカーの内だと、スポーツにつきまとう「運の内」だと楽しむわけです。

アメリカの大リーグは逆です。監督もプレー中に飛び出してきたり抗議して、時に乱闘も引き起こす。カナダのアイスホッケーファンに聞くと、プロリーグの試合中に乱闘がないとアイスホッケーを見た気がしないとされた時代がある（笑）。ミスジャッジも楽しんでいただけないかなあ……。

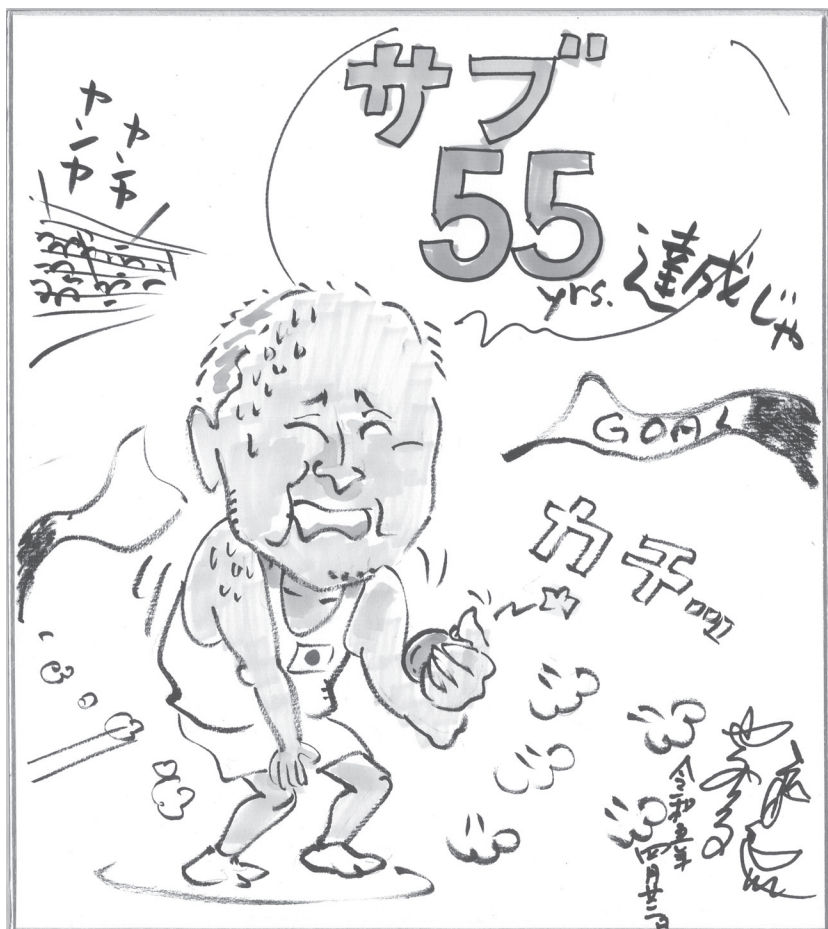
消えた日本人

——（笑）では3つ目のエピソード。私の大好きな話で、1912年のストックホルムオリンピックを舞台にしたエピソードです。金栗かみりしろう四三という日本選手が当時のマラソン世界記録保持者として大変に期待されていました。ところがレース当日は気温が32度を超える過酷な日となり、彼はレース中に倒れてしまいました。

その後、林の中をフラフラになって、さまよっているとところをストックホルムの親切な方の家で看病してもらったというのが実情のようですが、現地では噂が噂を呼び、彼は「消えた日本人」として小説にもなります。

そして「あの日本人は今も森を走っている」とか「今も森の中で妖精とお茶を飲んでいたのを目撃した」などと言い伝えられ、スウェーデンでは有名な人物になったそうです。

スポーツはもっと面白く、味わい深い



それから55年を経て、スウェーデンのオリンピック委員会から金栗のもとにストックホルムオリンピック55周年式典への招待状が届きます。75歳になつていた彼は式典に出席し、競技場で関係者に促されてコート姿のまま約100メートルを走ってゴールテープを切りました。そこにアナウンスが流れます。

「タイムは5年8カ月6日5時間32分20秒3、金栗選手ただいまゴールイン。これをもちましてストックホルム大会は終了いたします」。ゴールした金栗はメディアから「その間に何をしていましたか」と聞かれ「はい。嫁をめとり、子どもが6人、孫が6人できました」と粋な言葉を返しました。

一つはレースをリタイアした選手に55年もたつて招待状を出したスウェーデンのオリンピック委員会。次にゴールした後の「54年8カ月6日5時間32分20秒3」という洒落の効いた実況アナウンス。

そしてメディアの質問に「子どもが6人、孫が6

人できました」と応えた金栗。この三者三様のユーモアの三つどもえが実に洒落ていると思うのですが、いかがですか？

杉山 「消えた日本人」は日本ではあまり知られていないでしょ。レースに戻れなかつた金栗さんは、看病して下さつたその家にそのまま泊まつたとも言われています。そこが何ともいい。スポーツの楽しみ、面白さは極上の技に溢れた勝負にあり、それ以上、以外にはいはずです。

今日のこの会のテーマは実に難しいですが、スポーツの面白さを「勝負」だけとしてしまうのはもつたいないと欲ばる考え方もあるでしょう。100年以上前の話をスポーツの楽しさに繋げたスウェーデンの人たちは素晴らしい。

やく はい、イラストに起こしながら伺っていました。金栗さんに何を言わせようかと思いましたが、彼は当時トップランナーでしたから、55年は下回つたという意味で『サブ55年達成じゃ』。

西武ドームのうぐいす嬢

——金栗さんの記録はマラソンでは最長時間記録とされていますが、タイムそのものには並々ならぬこだわりがあったかもしれませんね（笑）。古い時代から急に飛んで最近の話題です。4つ目のエピソードはスポーツ学会会員の西本祥子さん、お願いします。

西本 プロ野球を観戦に行くと、球場のうぐいす嬢のアナウンスを聞くことになります。どこの球場でもほぼ同じで、まるでホーホケキョを繰り返すかのように「ファウルボールにはご注意ください」です。ところが去年まで西武ドームにはユニークなアナウンスが流れていました。試合前に「ただ今、バッティング練習を行っていますのは、内野も外野もベンチも守ります杉谷選手です」「杉谷選手の鋭い打球が稀にスタンドに飛び込む場合がありますので、ご注意ください」と選手をいじるアナウンスが

観客を引きつけていました。日本ハムファイターズの杉谷拳士選手はスタメンではないことも多かったので「ベンチも守ります」と言われたり、プロ通算14年で16本のホームランしか打っていないので「稀にスタンドに飛び込む」といういじるアナウンスでした。

2018年にはこのうぐいす嬢が『プロ野球 珍プレー好プレー大賞』というテレビ番組で珍プレー大賞に輝いたことで、大いに話題になりました。アナウンスを通じて杉谷選手は試合でのモチベーションをアップさせたということで、このうぐいす嬢に感謝していました。さて、今年の広島カープのキャンプでも面白いアナウンスを耳にしました。紅白戦の行われるグラウンドに「一番センター ウナギイヌ先輩 秋山 背番号9」「3番 『こんにちは』を覚えました デビッドソン」などの紹介が響き渡りました。それはうぐいすのような美しい声ではなく、早春を思わせる男性の声でした。新人王に輝い



素振りと素振り……即興で描くやくみつる氏に万雷の拍手とともに「上手い!」と声がかかった

た大瀬良大地投手や森下暢仁投手がマイクを握っていたことが分かり、観客は大笑いしながら楽しめました。これらのファンサービスは新井貴浩新監督の発案だったということです。

——観客を楽しませる工夫は、ボールパークにだけたお客さんには忘れ難い思い出になりますね。大リーグもいろいろ工夫していますね。スポーツ文化評論家の玉木正之さん、いかがですか。

玉木 雨が長引いてゲームが中断すると、球場によつては曲を流しますね。『雨に唄えば』『雨にぬれても』『雨を見たかい』『雨の日と月曜日』『雨にぬれた朝』……雨の名曲を流して、雨を見ながら、雨もまたいいなあという気分にさせてくれます。粋ですよ。

長嶋茂雄さんは象徴^{シンボル}

——ちなみに今日の企画を事前に話したら、面白い、面白いととても喜んでくれましたが、どうして

ですか？

玉木 スポーツを見ると面白いことばかりですからね。今回の企画の象徴は長嶋茂雄さんでしょう。長嶋さんが監督の時に伊東でのキャンプに取材に行つて「選手が練習がきつくて地獄だと言つてますが」とぶつけたら「地獄ですよ。面白いですよ。楽しいですよ。針の山や血の池、灼熱地獄^{しやくねつ}、面白いですねえ。苦しいですよ。若い人が天国でお釈迦様と蓮の池の周りを散歩してもつまらないですよ。いいでしょう地獄」と答えましたね（笑）。現役時代の長嶋さんは素振りをしない人でしたね。「どうやって打つのですか？」と聞いたたら「バットを構えてトップの位置さえ決まれば打てる。決めて、おろす。決めて、おろす。それだけ。バットを振った後は（手首を返して）そば屋の出前になればいい」と言うから、「その間に球がきたらどうするんですか？」と問い返したんです。そうしたら「エッ、球はどこにくるか高めか、低めか、外角か内角か分か



1959年6月25日、天覧試合。9時12分、長嶋は左翼スタンドへホームランを打った



その後、会心の笑みでホームベースにもどる

上・下・左「プレミア ムービー ラボ」より



1958年日本シリーズ対西鉄第7戦、9回長嶋はランニングホームランを打ち、ホームに滑り込んだ

らないじゃないですかあ」と言われました。長嶋さんは当てにいくんですね（笑）。別の時のキャンプで、空が澄んでいて、うろこのような美しい雲が出てたんですよ。そうしたら長嶋さんは空を見上げて「いい雲ですね。魚へんに青ですね」と言いました。記者たちもみんな感心して、魚へんに青は鯖だけれど、魚へんに弱で鰯と言いたかったのかもしれない……と妙に納得しましたね。

——確かに天才カンピューターと言われていた方でしたから、少し翻訳の必要なきもありましたが、グラウンドでの長嶋茂雄さんの言動は、必ずプラスアルファがあつて、それが実に楽しかったですね。

玉木 あーもう一つ思い出した。阪神の横手投げの上田二郎投手（後に次郎）が登板した1973年（昭和48）7月1日の阪神対巨人戦をテレビ観戦してたんですよ。上田が巨人相手にあと一人で阪神球団創設6人目のノーヒットノーランなるかという



1960年プロ3年目の長嶋

「プレミア ムービー ラボ」より

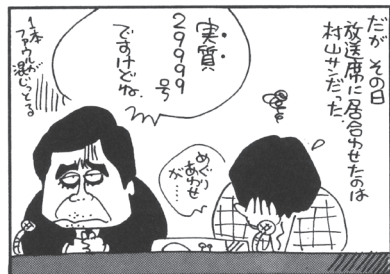
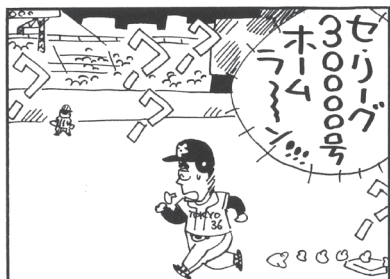
場面で、バッターボックスに長嶋を迎え、打球は無情にも三遊間を抜けた。4万3000人のため息。上田投手もがつくりと肩を落としました。すると一塁にいた長嶋が1、2歩マウンドに歩み寄って上田に手を振ったんですね。まるで「ごめ

ん、打っちゃったね」とでも言うように。テレビを見ていた私は「今すぐ早く牽制球を投げろ!」と叫んだけれど、同時に手を振って上田を慰める長嶋のしぐさにも笑った。長嶋の言動は人の意表を突くことが多かったですね。

——簡単に説明しますと、長嶋茂雄さんは1958年(昭和33)に巨人に入団して、1974年に「我が巨人軍は永久に不滅です」という名スピーチを残して引退した選手です。昭和天皇が初めてプロ野球を観戦された天覧試合(1959年6月25日、後楽園球場)の阪神戦でホームランを打った映像が佐藤修さんが取締役を務める産経映画社に残っていました。

佐藤 はい。天覧試合はご記憶に残っている方も多いと思いますが、ホームランを打った時間が見事なんです。7回に巨人のルーキー王貞治が小山正明から同点2ランを放ち、4-4に追いつきます。阪神は小山から村山実に投手を交代させて、打席に長嶋を迎えます。2-2からの5球目。打球は左翼スタ

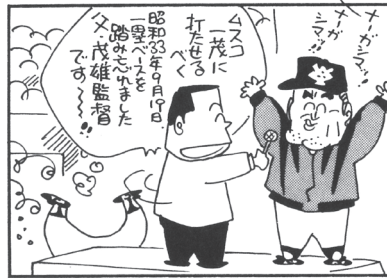
ああ30000号I



「パロ野球ニュース」⑬長嶋監督篇
はた山ハッチ／竹書房

ンド上段へ。この時、午後9時12分。実は後楽園球場を天皇陛下がご退席する時間は、事前に決められていた9時15分でした。天皇陛下は長嶋がダイヤモンドを回ってホームに戻るところまで、きつちりともご覧になっているわけです。もしホームランが少しでも遅れていたら、ご覧になっていないでしょう。他には1958年の西鉄との日本シリーズで、巨人から見れば3連勝して4連敗する第7戦目。この時長嶋は9回にランニングホームランを打ちました。

ボールは外野を転々としてホームに返ってくる様子はまったくくないのに、長嶋は激しくホームに滑り込んでいます。結果は1ー6で巨人が敗れましたが、この9回の長嶋の意地の1点は、一矢報いるものでした。長嶋の大事な試合や大事な場面でのプレーが記憶に残っている方も多いと思いますが、通算ホームラン444本の内、実は一塁ベースを踏み忘れてアウトになったこともあった（1958年9月19日、広島戦）ので本来ならば445本だったのかと



思います。またプロ3年目の1960年、オールスターの時点で3割5分9厘という打率も大変な数字だと思います。

やく 何の打ち合わせもしていないのですが、ちょうど、その佐藤さんのスピーチに続くような漫画をご覧にいます。天覧試合とベース踏み忘れ事件があった後のずつと後の話です。ご子息の長嶋一茂がセ・リーグの3万号本塁打を打った時の話です。めつたにホームランなど打たない一茂が打った!

スポーツゴジラ 20

は言わせました。巡り合わせの悪い日に解説席に村山さんと呼んでしまった……という漫画です。

もう一つの3万号ネタとしては、一茂側からです。一茂にインタビュするアナウンサーが「放送席、放送席、この日どんぴしゃで3万号を打った長嶋一茂選手です」。一方、お父さんで監督をされていた長嶋の喜びの表情の脇に「……息子一茂に3万号を打たせるべく、昭和33年9月19日に一塁ベースを踏み忘れた父茂雄」。ですから、もし父が一塁を踏み忘れていなければ、一茂は3万1号目のホームランでした。たまたま父が一茂の3万号をアシストしていた。つまりその日、その時、この日を動物的な勘で予測していた……のですね？ という漫画です。

やくみつる家の謎のお宝

——視点の巧み、お見事です！ やくさん、どうして長嶋さんはブラスアルファのある方だったと思わ

れますか？

やく 基本的には図らずともものぞくサービス精神だと思えます。狙っているとあざとくなつてしまいますが、図らずも……というところが長嶋さんなら……ですね。私は直接自分の足で取材するタイプの仕事ではなく、報道の方が拾ってきた記事を煮るなり焼くなりして味わわせていただくわけですが、唯一、実地で経験したチョーさん（長嶋さん）の思い出が宮崎キャンプにあります。若くして亡くなりましたが、当時、ラジオ日本にチョーさんの岩田曉美さんという名物記者がおられました。真つ黒に日焼けしたソバージュヘアの方で、いつもチョーさんに影のように寄り添っていました。岩田さんは朝練に付き合ったのでしょう。長嶋さんは自分の飲みかけのペットボトルを曉美ちゃんに渡したのです。「キミ、これ飲みなさい」。普通は大の大人が大人の大人に飲みかけの水は渡さないですよ。今の時代ですと、セクハラになつてしまうかもしれません



左・長嶋茂雄 右・野村克也

「プレミア ムービー ラボ」より

が、当時はそんなフレーズもなかった。でも飲みかけのペットボトルは人に渡さない……ですね。この時の長嶋さんは朝の練習から付き合っている暁美さんに「お疲れさん、ご苦労さん」という気持ちでペットボトルを渡したのでしょうか。岩

田さんは、とりあえず、これはいい、面白いと思つたでしょう。それまでも面白いと思うグッズを私に渡してくださる方でした。この私が喜びそうだという物を持ってきてくれたのですが、『チョーさん飲みかけの水』は今もわが家のサイドボードに保管してあります。

——うーん。やく家のサイドボードにはリアルな宝物が30年以上も納まつているわけですね。さて杉山さんの家も長嶋さんのお宝はあるのでしょうか？

杉山 ない、ない。そういう物は残念ながらありません（笑）。実際に私自身は長嶋さんと話したことありませんので、すべて引退された後に聞いた話です。テレビ中継が今みたいにカメラをたくさん配置できなかった当時の中継では、一塁、三塁にスター選手がいるのはありがたい。巨人戦を中継し続けた局にとって一塁・王、三塁・長嶋は絶対でした。興行的にも観客席に近い一、三塁は「スターポジション」です。長嶋は三塁手でしたが、三遊間に

飛んでくるボールは一人で全部捕ってしまうと言われてました。ショートは名手と言われた広岡達朗（現・廣岡）でしたが、広岡さんは「いつか長嶋はエラーするだろう。エラーしたら自分が全部カバーするつもりだった」と語っています。昔から名三遊間は仲が悪い。話はありますが有名なコーラスグループも素晴らしくうつとりするようなハーモニーを聴かせるのに、ステージが終わるときさつさと別々に帰っちゃうこともしばしばだったと言われます。

人間本来の何かが点に絡む^{から}

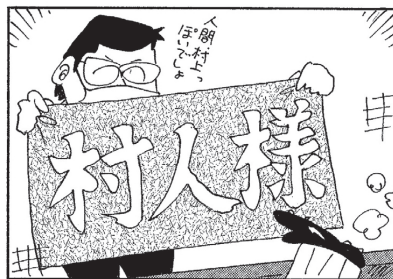
佐藤 思い出しましたが、長嶋さんと野村克也さんはよく比較して語られましたね。「長嶋はヒマワリ、私は月見草」と野村さんは言っていましたし、何だかんだ言うのはいつも野村さんで、長嶋さんは何も言わなかったですね。あるとき野村さんが不思議なことを言ったんです。「球技は大体4つに分かれる。一つは相手のコートにボールを入れて点が入

る球技、テニスや卓球。二つ目はゴールにボールを入れるラグビーやサッカー。三つ目は穴にボールを入れるゴルフ。それらに野球は入らない、四つ目だと。他の球技はボールが点になる。ところが野球だけは人間がグルッと回って帰ってこないと点にならない。だから野球だけは人間本来の何かが点に絡む^{から}んだ……」と、データを重視すると思われていた野村さんが言ったんです。

——野村さんは長嶋さんのカンピョーターを誰よりも分かっていたのかもしれないね。

佐藤 1994年10月8日、69勝60敗で中日ドラゴンズと並んで、最終戦の直接対決でセ・リーグの優勝が決まるという日のことは忘れられません。長嶋監督が新横浜駅から新幹線に乗り込むという情報をつかんで取材に行きました。発車する1、2分前にエスカレーターからホームに現れた。「どうですか？」と声が飛ぶと「スタッフも選手もコーチもすぐく緊張していて大変です」と言ったんです。「で、

【 我 は 神 な ら ず 】

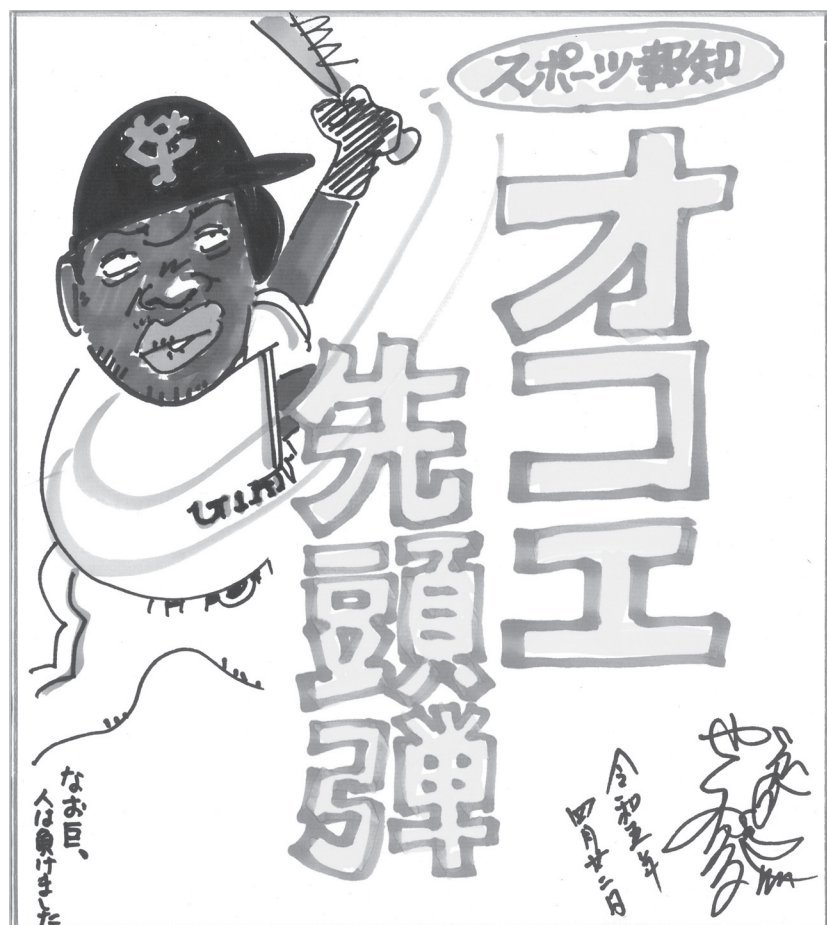


週刊ベースボール4月17日号より

監督さんはどうですか？」と声をかけると「エッ、オレ？ 何で？」とまったく関係のない様子で新幹線に乗り込んで、クルリと振り返った。「それじゃあ皆さん楽しんで下さい」。長嶋さんの笑顔の前にスーッと扉が閉まった。まるで映画の1シーンのようでした。その中日戦を制して、西武ライオンズとの日本シリーズを迎えます。そのシリーズ直前練習、川崎市内のジャイアンツ球場のライト側には、溢れんばかりの報道陣が詰めかけました。少し離

れたところに私たちのクルーがいたら、目の前を右から左へ横切っていった長嶋さんが、ふいに戻ってきました。あたりを見回すようにして「気が付きませんか？」と声をかけてくださった。しばしの沈黙。そして「いい匂い。金木犀の……」と言われた。もうその長嶋さんの雰囲気圧倒されました。まるで黒澤明監督の映画『七人の侍』に出てくる、野武士が来るのを前に静かに花をいじっている宮口精二のようでした。

スポーツはもっと面白く、味わい深い



大谷翔平(エンゼルス)の活躍を伝えるニュースには「なおエ……」が続く。
そこでやく氏は日本では「なお巨……」を流行らせたいと語った。

——私は長嶋さんと対談させていただいた時に「どういう気持ちでプレーしているのですか?」と聞きました。すると「年齢に関係なく、老若男女を問わず、今日初めて野球を見に来たという人がいると思っています。その人が野球は面白く、楽しいと思って、また来たいと思って帰ってもらえたらいいと思います」と話されたことが忘れられません。多くのファンの目を常に意識して、打つ、走る、投げる、そして話す、をいつも心がけていらしたように思います。

本日、披露されたエピソードにも、勝敗や結果だけを求めるのではなく、より広く深くスポーツを楽しむためのスパイス、エッセンスが詰まっていたように思います。そして、長嶋さんのプレーや言動にも、スポーツへのリスペクトがあり、見ている人にスポーツをもっと楽しんでもらいたいという思いが込められているように感じました。彼のその姿勢こそ、今回、ご紹介した数々のエピソードに通底して

いるものだと思います。

百人百様の解釈

笑顔で耳を傾けてくださっていた上智大学名誉教授の師岡文男先生、いかがでしたか。

師岡 とても面白く、皆さんのお話に時間がたつのを忘れました。スポーツには運動競技だけではなく、遊びや気晴らし、暇つぶしという意味があります。ラテン語の『deportare』が語源ですから、義務から心と体を解き放ち、元気を回復するというもので、皆さんもよくご存じだと思います。ですが、他にも「ふざける」なんて意味もスポーツにはあります。まあ百人の学者が語れば、百様の解釈があるのがスポーツでしょう。そういう意味で今日はよく笑ったので、見事なスポーツでした。ありがとうございました。

(本稿は2023年4月22日、東京・新宿区早稲田大学戸山キャンパスで開催した日本スポーツ学会主催第122回『スポーツを語り合う会』をもとに構成しました)

スポーツの アナログな世界観

国士舘大学大学院特任教授

菊

幸一



スポーツは単純に言って「勝つか、負けるか」ですよね。勝ったら喜び、負けたら悔しがるわけですが、どっちが勝つか分からない状況が最も面白いわけです。その勝敗の未確定性が、スポーツの興味深いところですね。そして、結果が出れば勝敗に関していろいろな意味づけがされる。

スポーツはデジタルで、結果の違い、つまりデファレンシエーション（差異）の記号でしかない。それを勝った、負けたと意味づけするのですが、その自由性を見る側にゆだねられています。これも非常に面白いわけです。

トーナメント制だと最終的に勝つのは1チーム（1人）しかなく、あとはすべて敗者です。

もし、負けることがダメだとなれば、みんな引いてしまいうわけで、誰もがスポーツをしなくなってしまう。

自由な評価や批判

おそらく、勝つても負けても、そこから沸き上がってくる喜びや愉しさ、悔しさや悲しさといった感性、あるいは人生の経験の意味合いをスポーツという媒体（メディア）を通じて自由に評価したり、たたえたり、批判したり、時に足したり、引いたりするのだろうと思います。

歴史的にさかのぼると、そのような精神性（mentality＝マントリテ）の重要性を最初に発見し

たのは上流階級だったのだらうと思います。先ほどのサッカーの話で杉山さんがいみじくも「ミスすることは愉しいんだ。面白いんだ」とおっしゃっていましたが、つまり人生がつまらなくて、退屈で退屈でしうがなかつたら、退屈という病に冒されていく……そこから脱するためにはどうしたらいいかと上流階級の人間は考えて、考え抜いた末に手や腕を縛ることを発見した。つまりサッカーの誕生です。

手や腕は最も人間の生活の自由を支えるものですが、それをあえて不自由にすることで、人間は面白いことができるのだと考えた。身体の不自由性が人間の意味合いを豊かにしてくれる。だからミスも

OK、むしろそちらの方を楽しむべきだ、そのほうが豊かだということを発見したのです。

0と1の間に潜む価値

ところが、それをどんどん勝敗や結果の方へ追いつ込んでいきビジネス産業化していったのがブルジョ

アジー。すなわち中産階級であり、産業資本家が中心となって国家を形成したアメリカだらうと思います。アメリカナイズされたものは0か1かの意味合いしかもたせない。デファレンシエーションでしかない結果にあえて優勝劣敗の意味合いをラベリングして資本主義社会の形成に同調させ、スポーツの豊かな意味合いや価値を剥奪するのです。まさにデジタルの世界です。しかし、スポーツにはその0と1の間にこそ人間の機微や想像、推察、あるいは発想力の豊かさが潜む。

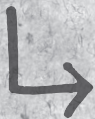
それがスポーツの結果以上のもとなつて人々に響くのだらうと考えます。

今日、お話を聞いていて、近代に誕生したスポーツのレジャーとしての原点に戻つて、アナログの世界観で、もつとスポーツの意味合いを多様に考えていく、その方が豊かになれると実感しました。

プールの後の 眼洗い

過去

ずっと必須だと信じ
日本中で眼洗いを慣行



現在

眼の表面を
傷つける
眼洗い不用



石岡みさき(眼科専門医, 医学博士)

筑波大学附属中・高等学校卒業。1989年横浜市立大学医学部卒業。同大学病院にて2年間研修ののち、眼科大学院にてぶどう膜炎について学ぶ。93年より米国、ハーバード大学に留学。眼の免疫の研究に従事。96年帰国後東京歯科大学市川総合病院にて角膜、前眼部疾患について学ぶ。98年11月に両国眼科クリニックの院長就任。2008年5月に「みさき眼科クリニック」を開業。

——石岡先生らが「プール後の洗眼は眼に悪影響である」と報告した論文は、英文眼科雑誌に掲載され多方面で大きな話題になりましたね。

石岡 テレビ、新聞、雑誌と、たくさんメディアに取り上げていただきました。論文を書いたのはもう5年も前のことですが、いまだに取材の問い合わせがあつて驚いています（笑い）。

——それだけ、世の中がプール後の洗眼を正しいことと信じているんだと思います。あらためてうかがいますが、プール後の洗眼は眼にとって良くない行為なんでしょうか。

石岡 私たちの眼の表面は、ムチンという保護粘液によつて覆われています。ムチンは眼を乾燥や感染症から守ってくれる大切な粘液なのですが、プールの水や水道水に含まれる塩素は眼の表面を傷つけるだけでなく、その大切なムチンを洗い流してしまうんです。当然、ムチンが洗い流されてしまえば眼の障害を引き起こすリスクが高まりますから、プール

後に眼を洗うことはおすすめできません。水泳をする際に重要なのはゴーグルを装着してしっかりと眼を守ることであつて、プールから上がった後によく眼を洗うことではないのです。

——子供の時から、プールで泳いだ後には必ず目を洗うように指導されてきました。学習指導要領などで義務づけられているものと思つていましたが。

石岡 たしかに、文部科学省によつて策定された『学校環境衛生基準』において洗眼・洗面用の水道の設置が定められていますが、洗眼を義務づける記述はありません。当然、目を洗うことを期待して水道の設置を義務づけているのだと思いますが、実は目を洗う義務そのものはないんですね。

——そうなんですか。ずいぶん熱心に洗つてきてしまいました。

石岡 私自身もしつかり洗うよう指導されてきました。目に染みるのが嫌でこつそり目をつむつていましたけどね（笑い）。

——今考えてみれば、そちらの方が正しかったわけですね（笑い）。そもそも、先生がプール後の洗眼の研究をしようと思ったきっかけは何だったんでしょう。

石岡 皆さん洗眼ばかりに注目されるんですが、そもそもそのきっかけは、洗眼ではなくゴーグルなんです。というのも、年に何回かは「水泳の授業でゴーグルを装着したいから診断書を書いて欲しい」と思者さんをお願いされるんです。

学校体育ではゴーグルが禁止

——ゴーグルをするのに診断書ですか。

石岡 私たち眼科医からすればプールの水はそれほどきれいなものではないので、眼を守るゴーグルの装着を禁止するのは不思議でしょうがないんです。でも、昔のゴーグルはとても高価で全ての家庭で用意できるわけではなかったようですし、つくりも脆弱なものだったので、壊れたりそれが原因で怪我を

したりした場合に学校では責任を負えないという事情があったようです。当時は原則としてゴーグルを禁止して、どうしても必要であれば医師の診断書を提出してください、という対応をしていたみたいですね。今も一部の学校が同じ理由でゴーグルの装着を禁止しているようです。

——ゴーグルの意義が正しく理解されていないんですね。

石岡 残念ですが、そうみたいです。昔からよく眼科医同士で「眼を守る行為に診断書が必要って、おかしいよね」という話をしていました。私たちは医者ですから、「診断書を書いてください」と言われれば書きますけど、正しい判断をしている方に余分にお金を出してもらうのはとても心苦しいことです。診断書は自費で3000円くらいかかるものですからね。

——それでゴーグルに関する研究をしようと思ったのですね。

石岡 そうです。ゴーグルの有効性を示す実験ができれば、ゴーグルの装着に理解が深まるのではないかと思います。

また、眼科医の中では、泳いだ後に水道水で眼を洗うのの意味がないんじゃないか、あるいは目に傷をつけてしまうんじゃないかという議論があったので、それも確かめてみることにしました。

——石岡先生よりも前に、プール後の洗眼について研究された方はいらっしゃったのでしょうか。

石岡 日本にも、外国にもいませんでしたね。プール後の洗眼ではなく市販の洗眼カップについての論文はありましたが、それは日本の方のものでした。

眼を洗うのは日本人だけ

石岡 外国にも論文がないのは少し不思議だったの
で、外国の眼科医仲間に洗眼について話をきいてみたんです。すると、どうもプールに洗眼用のU字型蛇口があるのは日本だけみたいなんです。ああいう

形の蛇口は薬品が眼に入った際に使用するもので、実験室にあるのが普通だと。どの国の眼科医もプールに設置されているのは見たことがないって言うんです。そもそも、外国には洗眼の習慣そのものなかったんですよ。

——てつきり、あの蛇口は世界中のプールにあるものだと思います。先生もプール後の洗眼は世界中でやられていると思っていませんか。

石岡 そうですね。どこの国でもやっていると思っていたんですが、そんなことをするのは日本人だけだと笑われてしまいました（笑い）。

——なぜ、日本のプールにだけU字型蛇口が設置し
てあるのでしょうか。

石岡 想像の域を出ませんが、戦後の日本でトラコーマという結膜炎が大流行したことが関係している
と思います。当時の日本は衛生環境が整っておらず
良い抗菌薬がありませんでしたから、トラコーマに
感染する子供たちが非常に多かったです。感染の

拡大を防止する観点からは、発症したら本来は学校へ行かない方がいいんだけど、二週間も学校へ行かなかったら勉強が遅れてしまう。それでは困るので、学校医を置こうということになったんです。感染した子供も登校させて、学校で治療しようということですね。眼を洗う習慣も、そのあたりのことが関係しているのではないかと思います。

——論文掲載後の国内の反響はいかがでしたか。

石岡 論文にする前の学会発表では鼻で笑われていましたけど、論文にしてからはマスコミをはじめ、面白がってくれる人が多かったですね。

——欧米の方々の反応はどうでしたか。

石岡 論文は「Cornea」という国際誌に掲載されたんですが、掲載が決まるまでとても苦労しました。査読してくれるのが洗眼の習慣がない外国の方ですから、「意味が分からない。どうして日本人は目を洗うのか」と何度も尋ねられました（笑い）。それくらい、外国では眼を洗うことは珍しいことの

ようです。

——日本と外国の、体育やスポーツのとらえ方の違いも関係ありそうですね。

石岡 そうですね。そもそも体育の授業で水泳をやる国は、日本以外にあまりないのかもしれませんが。

——日本の水泳の授業には、「水難への対応」という側面もあります。

石岡 大事なことです。学習指導要領に明記されている「水中で目を開けられるようにすること」も、水に慣れることや、水難事故を防ぐという意味では理解できますし、できた方が良いと思います。でも、泳げるようになったら、眼を守るためにもゴーグルを装着した方が良いと思うんですよ。

——今はゴーグルの装着を認める学校もあるのでしょうか。

石岡 だいぶ増えているみたいです。最近はプラスチックなどの安価で安全性の高いゴーグルが普及していますし、保護者の健康への関心も高まってい

ますからね。ゴーグルを認めるか認めないか、洗眼をするかしないかは、現場の先生たちの判断に任せられるようになってきているようです。

—— 水泳をする際には、眼を守るためにどんなことに注意すればよいのでしょうか。

石岡 まずはこちらとゴーグルを装着することです。ゴーグルの中にプールの水が多少入っても、洗眼はせずに目の周囲を軽く洗い流すだけで十分です。

—— 泳いだ後の点眼は必要でしょうか。

石岡 あまり必要ないと思いますが、点眼するのであれば防腐剤の入っていない生理食塩水のをすすめています。

—— コンタクトレンズはどうですか。

石岡 コンタクトは外して、裸眼に度入りゴーグルを装着して泳ぐのが望ましいですね。

—— なぜコンタクトを外すのですか。

石岡 最近の主流であるソフトコンタクトレンズは、含水性という水を吸着する性質を持っているんです。

レンズ自体が水を吸ってしまうから、あまりきれいとは言えない。プールの水が眼に留まってしまいます。これはあまり褒められたことではありません。

—— どうしてもコンタクトをつけて泳ぎたい場合はどうすればよいですか。

石岡 ワンデイタイプのレンズをつけて、泳いだ後に捨ててしまうのが清潔で良いと思います。

—— プールの水はそんなに汚いものなのでしょうか。無色透明で、臭いもそれほどしませんか。

石岡 プールの水には塩素濃度や透明度など様々な衛生基準がありますが、特に屋外のプールは塩素濃度を保つのが難しいんです。気温などの変化で水が蒸発してしまいますからね。それに、プール水の検査は1時間毎に行うものですから、検査の合間の水質がどうなっているかは分かりませんね。

まばたきに隠された秘密

—— では、普段の生活では、目にどんな手入れをす

ればよいのでしょうか。

石岡 目は、歯と違って特に手入れする必要がないんです。病気などにかかっていなければ、点眼する必要ありません。研究していて驚いたのは、普段から水道水で目を洗う人がたくさんいることです。繰り返しになりますが、洗眼は眼の表面に傷をつけるだけでなく、眼を守るムチンを洗い流してしまう行為ですから、全く必要がありません。

——市販の洗眼カップを愛用している人もいますね。

石岡 あれもあまり意味がありません。洗眼カップを使って出てくるゴミのほとんどは、まぶたの周囲についていたゴミでしょうね（笑い）。

——目の中のゴミではないんですね。

石岡 目の中のゴミは、まぶたきをすることで自然に流れ出ているものなんです。人間は一日に数万回まぶたきをしますから、相当な自浄作用があるんです。まぶたきをスローモーションで見たことはありますか？

——いえ、ありません。

石岡 まぶたきって、まぶたが上から下に真っ直ぐ閉まっているように見えますよね。でも、実はまぶたは目尻から目頭の方へ、まるで自動車のワイパーのように端からきれいに閉まって眼の表面のゴミを集めているんです。また、まぶたの裏にはムチンを出す細胞が集まっている場所があり、そこからまぶたきをするたびにムチンが排出されています。自動車のワイパーをかける時に、一緒に水を出すことがありますよね。それと同じようなもので、まぶたはワイパーのような動きとムチンとで、目の中のゴミを洗い流しているんです。私たちは無意識のうちにこうしたことを一日に何万回とやっているわけですから、必要以上に目を洗ったり目薬を使ったりする必要はありません。水泳をする際にゴーグルを装着するくらいで十分なんです。

（取材・構成 波多野圭吾）

（本稿は2013年11月5日刊行の23号の再録です）

大谷翔平への愉快な オモシロ・アナウンス

【ピッチャー編】

・「二刀流の彼は『ユニコーン』でスーパーヒーロー、漫画のキャラクターです。彼がやっていることは、（現実には）起こりえないことなんです。

彼ができることを実現するためには6人の選手と契約しなければいけません」2021年4月27日対レンジャーズ戦（グローブライフ・フィールド）

・「スワッテクダサイ、サンシン」2021年4月27日対レンジャーズ戦（グローブライフ・フィールド）

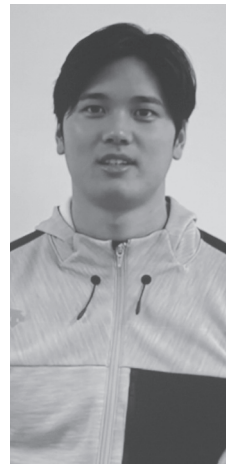
・「ドコカニイッテ、ハヲミガク」2021年5月12日対アストロズ戦（ミニッツメイド・パーク）

・「スワッテクダサイ」「ジャアマタネ」2021年5月30日対アスレチックス戦（オークランド・コロシアム）

・「エイリアン以外なら何でもいいかな」2021年7月13日オールスター出場時に記者からの質問で「ユニコーン、スーパーマン、ビースト、どんなニックネームが一番のお気に入りか？」と聞かれた大谷の返答。

・「イワテノタカラ」2022年5月11日対レイズ戦（エンゼル・スタジアム）

・「故郷の惑星から人間らしくしろと電話が来た」2023年4月27日対アスレチックス戦（エンゼル・スタジアム）突然の乱調で5失点直後、ピッ



チコムの故障のしぐさを見て実況。

【バッター編】

・「あの打球は絶対煙が出ていた」2021年4月12日対ロイヤルズ戦（カウフマン・スタジアム）第4打席2塁打

・「ロケットセンターから打ち上げられたよう」2021年7月27日対ロッキーズ戦（エンゼル・スタジアム）5回第3打席36号HR

・「完璧なムーンショット」2021年8月18日対タイガース戦（コメリカ・パーク）8回第4打席40号HR

・「オオタニスゴイ」、「ショウヘイ、キュンデス」2022年4月16日対レンジャーズ戦（グロウプライフ・フィールド）5回第3打席でこの日2本目の2号HR

・「イッテラッシャイ、スゴイ」2022年6月12日対メッツ戦（エンゼル・スタジアム）で6回第4打席13号HR

・「西海岸を越えて日本に打ち返そうとした!」2022年7月1日対アストロズ戦（ミニッツメイド・パーク）初回第1打席18号HR

・「彼は最も物騒な筋肉の持ち主」2022年8月28日対ブルージェイズ戦（ロジャーズ・センター）7回第4打席28号HR

・「イッテラッシャイ・ベースボール」2022年8月30日対ヤンキース戦（エンゼル・スタジアム）5回第3打席29号HR

・「オハヨウゴザイマス、ニューヨーク」2022年9月1日対ヤンキース戦（エンゼル・スタジアム）6回第3打席30号HR

・「ショウヘイのロケットのような打球! 時速110マイル!（177キロ）なんてスイングだ! 彼はゾーンに入っている」2023年5月8日対アストロズ戦（エンゼル・スタジアム）5回第3打席エンタイトル2塁打

（構成＝鈴木希人）

『走』第6回



「皇居ラン」は東京五輪と

「銀座ホステスマラソン」で始まった!?

玉木正之

1964年東京オリンピックのマラソンで優勝したエチオピアのアベベは、2位以下を大きく引き離す圧倒的な強さと、哲学者のような顔貌で、多くの日本人に強烈な印象を残した。そして誰もが「走る」ことに目覚め、「マラソン・ブーム」が巻き起こった（まだジョギングという言葉はなかった）。

そのとき世間を驚かせたのが「皇居一周銀座ホステスマラソン」。日頃運動不足になりがちなホステスさんたちの健康増進のため、クラブ経営者が企画したイベントで、東京五輪閉幕（マラソンの日）の8日後に早くも開催された。

参加したホステスさんたちは約40名。仕事を終えた後のレースのため、

スタートは午前1時40分。全員トレーニングパンツや運動着に着替え、胸には「ラモール・ボン」「ベラミ」「シャトレ・アリサ」などの店の名前と自分の源氏名を書いたゼッケンを付け、銀座から徒歩約20分のスタート地点に集合。1周約5^{キロ}のコースを走ったのだった。

優勝したのは21歳のあけみさん。23分30秒のタイムも見事なら、全員完走の結果も立派。ただし参加したホステスさんたちには、高級ブランドのバッグやクラブの客へのプレゼント用の高級ネクタイなど、現在の価格で総額約300万円の景品が贈られたため、アマチュアリズムの厳しかった当時は、ホステスさんたちの「余興」としか見られなかった。が、最近NHKの『チコちゃんに叱られる!』で「皇居ラン（ジョギング）」の草分けと紹介され、ホステスさんたちの見事な「走り」は、約半世紀後に立派なスポーツと認定されたのだった。



夢劇場『馬』

No.31



千辛万苦

長田渚左

60年も前の名馬フジノオーを知る人は、どのくらいいるだろうか。

当時、フジノオーとイギリスまで同行した橋本輝雄調教師に尋ねたことがあったが、「とてもとても大変だった」と言うだけで、多くは語らなかった。

フジノオーは中山大障害を4連覇し、日本の競走馬として初めてヨーロッパに遠征。世界で最も人気のあるレースといわれる「グラッドナショナル」に参戦した唯一の日本馬である。(1966年)昨年出版された『そしてフジノオーは「世界」を飛んだ』(辻谷秋人著、三賢社)を読んだが、「そして」ではなく「それでも」フジノオーは「世界

を飛んだ」というような遠征の千辛万苦が記されていた。読みながら、何度涙が出たか分からない。何より驚いたのはアメリカ合衆国の検疫を受けることが、イギリス入国の条件とされたことだ。東京から太平洋を越えて、まずサンフランシスコに向かい、アメリカ大陸を横断してニューヨークまで移動、そこから大西洋を渡ってロンドンへ。横浜での動物検疫所に入った日から11日もかけてイギリスに到着した。しかも、出走の負担重量は12ストーン、76・2^キの最高重量が課せられた。イギリスの競馬関係者の反応も「そもそも2カ月前に来て走れると思うのが間違い」と、とても冷やかだった。他にもフジノオーの右肩先が腫れるなど、二重苦・三重苦でのレース当日、発走30分前に雨。その後、風も強まった。結果はあえて記さないが、人と馬の足跡は歴史に残った。この挑戦を「無謀だ」というのは簡単だが、トライしたからこそ、今の日本競馬があるのだろう。



バックナンバーのご案内

バックナンバーを、直接お申し込みいただけます。ご希望の号と冊数を明記し、送料分の切手を左記にお送りください。

〒352-0011
埼玉県新座市野火止8-16-32
株式会社東美物流
『スポーツゴジラ』係

送料値上がりのため45号より変更しました。
10冊まで 送料 400円
20冊まで 送料 700円
40冊まで 送料 1200円
※特集の内容は本誌巻末カラーページとホームページに記載しています。

【ホームページ】

<http://sportsnetworkjapan.com/>

★お申し込みいただくとき『スポーツゴジラ』への感想もお書き添えいただけると幸いです。

次の秋号第60号は2023年10月

初旬刊行を予定しています。

また、バックナンバーは品切表示の号も左記の図書館で読みになります。ご利用ください。

- 世田谷区八幡山・大宅壮一文庫
- 世田谷区深沢・日体大世田谷キャンパス図書館
- 港区広尾・東京都立中央図書館
- 千代田区永田町・国立国会図書館
- 港区芝・東京都人権プラザ図書館
- 新宿区霞ヶ丘・日本スポーツ協会資料室

【理事】

五十嵐二葉（弁護士）／池井優（慶應義塾大学名誉教授）／伊藤順蔵（早稲田大学名誉教授）／岡田匡令（淑徳大学名誉教授）／長田清左（ノンフィクション作家）／笠原一也（日本オリンピック・アカデミー名誉会長）／菊幸一（筑波大学教授）／佐久間昇二（びあ株式会社取締役）／重村一（㈱ニッポン放送取締役相談役）／永井憲一（法政大学名誉教授）／山口香（筑波大学教授）／山口良治（京都工芸大学院高校ラグビー部総監督）

【事務局】

〒359-1192
埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15
早稲田大学スポーツ科学部太田章研究室気付

皆様、ご存じですか？

スポーツゴジラは年4回春・夏・秋・冬の季刊で発行。
都営地下鉄・大江戸線・浅草線・三田線・新宿線の各駅、全国の大学102カ所に設置されています。

スポーツゴジラ®

2023年6月9日発行
第1巻第59号

無断転載・転売を禁じます

企画編集 スポーツネットワークジャパン

長田清左・阿部雄輔・首藤正徳
波多野圭吾・西本祥子・江川卓実

山内亮治・鈴木希人
制作 有限会社ナトリック

印刷・製本 株式会社 美松堂
発行 スポーツネットワークジャパン

お問い合わせは左記まで

特定非営利活動法人

スポーツネットワークジャパン

〒168-0063

杉並区和泉1-40-13-401